

来年もがんばります

登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』も今や広く市民に知られるようになり、徐々に利用者も多くなってきました。また、近隣の地域からの来館も増えてきていると思います。

支援ボランティア『モモンガくらぶ』は毎月1回、独自の主催事業を計画し、それを展開しています。参加者は老若男女さまざまですが、いつも楽しくやっています。会員それぞれの得意分野を生かし、会員相互、市民と楽しもう、『ふおれすと鉱山』を知って利用してもらおうと取り組んできました。

鉱山の自然を体験しながらの歩くスキーやハイキング、野鳥観察など、2003年11月の主催事業は約30人が参加した『おしゃれクラフト教室』で、世界に一つだけのランプシェード作りで参加者と一緒に楽しいひとときを過ごしました。時間が足りなかった方などは後日、『ふおれすと鉱山』を訪れて完成させるなど素晴らしい作品ができあがりました。

これからも楽しい『モモンガくらぶ』独自の主催事業を開催していきたいと思っています。

今年も『ふおれすと鉱山』で森づくりが始まります。『モモンガ

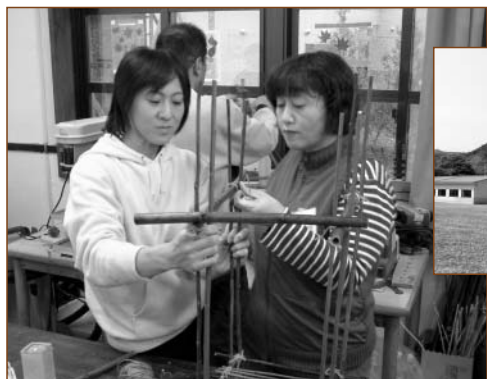
くらぶ』として「ゆったりとした時間が流れる森」を作りたいなあ」と思っています。

生まれたばかりの『モモンガくらぶ』でいろいろ不十分なところはありますが、みんなと協力して多くの利用者が『ふおれすと鉱山』を訪れ、「ここに来てよかった」と言われるようにしたいと思っています。応援をよろしくお願ひします。

(富士町/志水昌子さん・登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』支援ボランティア組織『モモンガくらぶ』)



登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』



ランプシェードをつくる志水さん(左)

大切にしたい
人とのふれあい

「みんな心があつたかいなあ」登別温泉という土地で最初に思ったこと。

一年前、期待と不安を胸に21年間暮らした地元・札幌を離れ、登別に来た。ここではご飯を食べに行っても、お酒を飲みに行っても名前を覚えてくれて、暖かく接してくれる店員さんや常連客がいる。地獄まつりでは、老若男女問わずみんな成功させようという凄まじいパワー、そして街頭には外出届を出した患者様、退院した患者様がかけてくれる暖かい声援がある。院内そして温泉や買い物で私の顔を見つけては近況報告をしてくれる患者様がいる。

院内のスタッフ同士も大概顔見知り。これは小さい地域、この登別温泉ならではの特色でもあると思う。また同時に、そんなふれあいを私は大切にしたいし、もっともっと誇りに思いたい。この恵まれた環境や暖かい人たちに囲まれて生活できることを私は幸せに思う。

これからは患者様や周りの人びとが暖かさを感じられるような自分、そして看護師を目指し努力し続けたい。

(登別温泉町/高瀬理絵さん)

3

月



市立若草幼稚園卒園式・閉園式(3月15日)



カルルス温泉冬まつり(3月2日)

2003年を振り返って②